日刊工業新聞

年月日	21	04	21	ページ	05	NO.	

働き方改革

90

ステムセル研究所

オンライン化 時間節約

臍帯血保存 知名度高める

ステムセル研究所（東京都港区、清水宗文社長）は、新型コロナウイルスの感染拡大をきっかけに業務のオンライン化が進んだ。専用アプリで会議など社員間のやりとりをするほか、日報などの書類もオンライン上で回覧する。押印も撤廃した。またその緒から採取する血液、臍帯血を将来に向けて保存する事業において、説明会・見学会のオンライン化や広告のデジタル化を推進した。営業方法も変化している。

（門脇花梨）

「移動時間がないため、考える時間を増やして勤務に当たる。たせた」―。谷勝弘総務グループ長は、オンライン化したことで、会議室の確保などにかかっていた時間を節約できたことは大きいという。

また同時並行で進めたきず、時差通勤で出勤だ他拠点との会議をオンライン化の効果をこう説明する。専用アプリを導入したことで、本社とそれ以外のオフィスとの会議は全てオンラインで完結する。

臍帯血に関する個人情報は厳格な管理が必要なため、情報を外に持ち出すことができない。このため担当の従業員はテレワークができるのが、ペーパーレス化だ。経費精算や勤怠管理はもちろん、毎日提出する日報もアプリで送付できるようにした。谷総務グループ長は「既読がつくため、上司が読んだかどうかすぐ分かる。ハンコを押すために書類を回すといった作業も不要になった」と利点を説明する。

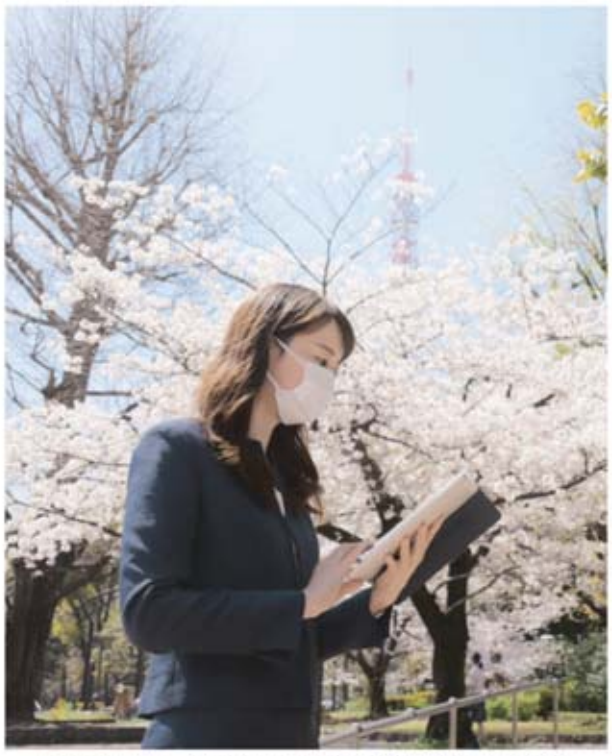
臍帯血保存の有用性の知名度を高める活動にもオンラインを活用している。デジタル広告を出すことで、より多くの人の目に触れるようになった。従来は営業スタッフが母親学級に行って数分間、臍帯血について紹介し、オンライン化は分かりやすさを追求するのにも一役買っている。オンラインコンテンツを充実させる部署として社内に「虎ノ門オンラインスタジオ」を新設。臍帯血に関する説明会、見学会をオンライン化し、保管サービスの利用を検討中の顧客が、家に居ながら理解を深められるように工夫した。動画や画像はより効果が高いという。

感染症の状況をみて今後も母親学級への訪問は続けるが、営業社員の働き方は「足を運ぶ」だけではなくなった。より多くの情報を、より分かりやすく提供することも大きな仕事の一つとなった。

谷総務グループ長は「情報セキュリティーの強化など課題もあるが、オフラインと融合すれば働き方は向上する」と、笑顔をみせる。

一方で、効率化は空き時間を生み、その隙間を埋めようと働き過ぎる懸念もある。そこで同社は心身ともに健康に働ける環境をつくるべく、「衛生委員会」を立ち上げた。産業医と各部署の代表者が月に1度話し合う意見交換の場を作った。

コロナ禍で強制的に変わった働き方は、効率化につながったが、社員の健康維持は大きな課題として浮き彫りになった。今後も長期的な健康を見据えた働き方改革が続いていく。



外出先から、営業社員が自身の勤怠管理を送る

新部署の「虎ノ門オンラインスタジオ」。説明会もオンライン化、分かりやすさが向上した

無断転載・複写禁止